

開催地名	広島県呉市
開催日時	令和8年1月24日(土) 15:10 ~ 16:30
開催場所	呉市消防署
語り部	武蔵野 美和(岩手県陸前高田市)
参加者	呉市消防署職員 36名
開催経緯	防災リーダー育成のためのプログラムを毎年2回、本年度は10月と1月に3日間の講習を実施しており、語り部の方によるリアルなお話を伺えるこちらのプロジェクトで防災リーダーの防災意識を高めたい。
内容	<p>「あの日が最後だったら何ができただろう」</p> <p>(1)はじめに 陸前高田と聞いて、子供は「大変なことがあったらしい」で終わることが多い。想像でしかない子供とは違い大人は実際に見聞きしたものがある。「あの日が最後だったら」何ができるか、今から何をしたらいいのか。訓練では失敗し後悔もして欲しい。防災の学びとは自身の生き方や暮らし方や人に伝えること、後悔しないように考え実行できることだと感じている。命に対して真摯に向き合う皆様だからこそ、違った観点での気づきを得て欲しい。</p> <p>(2)陸前高田市について 平成23年3月11日マグニチュード9.0、震度6の地震が発生。3分ほど立っていられない横揺れが続き、ある程度おさまるまでは動くことができなかった。這いつくばるように外に出た時2階の出窓が目の前に落下したが、地元出身者ではない私には津波が来るという考えには及ばなかった。</p> <p>陸前高田市：人口2万4千強 犠牲者：1,700人以上(行方不明を含む)</p> <p>犠牲者のうち一次避難場所ではなく指定避難所へ300~400名が向かい、亡くなっている。この人数は後の聞き取りからでしかわからず、推定の数字となる。未だに200の方が行方不明のままということからもわかるように大きな津波の被害の特徴である。</p> <p>また、昨年末、県北の山田町で行方不明になった小学校4年生のお骨の一部が捜索隊によって宮城県南三陸町で見つかった。15年の歳月を経てご家族の元へ帰れ</p>

たというニュースが話題になった。それでもお骨の一部であり、確定までにも3年以上の時間を要している。

陸前高田は、平野部に市の中心となる三角州が多く作られており、全市における建物の半分が津波によって全壊してしまった。海辺では16～17mの高さまで到達した津波は多くのものを破壊し、巻き込み、奪った。体育館も指定避難所のため多くの人が避難し安心だと思っていたにも関わらず壁を突き破って襲ってきた津波はまるで大きな洗濯機のように渦を巻いて飲み込んでいった。体育館の梁にぶら下がった4名だけがかろうじて助かったといわれている。海が一切見えない5km離れた場所でも川をせり上がってきた津波は11～12メートルにも及び海岸部と変わらない大きな被害となった。

(3)災害とは

防ぐことができるもの、できないものはあるが災害は必ずやってくる。避難所運営においては多様性にも配慮が必要で、性別で線引きを行うことなく一人一人の主眼で周囲に気配りをし、目に見える困りごとだけではないので、自身の経験なども含めた視点や気づきを大事にして欲しい。

また、大切なものはひとそれぞれ違い、笑顔でいられなくなってしまうもの、悲しい思いをしてしまうもの、そのものが災害であり自然災害だけではない。

(4)いつもの備えをもしもに活かす

備蓄とは生活のための2次避難用であり生活する場所が決まり、初めて必要になるもの。持ち出し袋は1次避難用のために準備をし、まずは持ち歩き用として0次避難グッズを持つことから始めて欲しい。

グッズも必要ではあるが入れたままでは役に立つことが少なく、例えば小腹を満たせる食べ物やパラコードで作られたストラップがあれば緊急時に足の固定をすることや、自身のスペースを確保することも可能になる。普段から食べているものや使っているものを持つことによって、食べたから・壊れたからと買いなおす機会が与えられ、防災グッズがより身近に感じられるようになる。

防災グッズに決まった答えはなく、それぞれ必要なものや活用できるものや方法が異なるため、自身に合ったものを取り入れてみてもらいたい。

(5)防災とは

訓練をしていないことを実践することは難しいため、住んでいる地域や場所における危険リスクを理解して訓練を行うこと。リスクだけを見て、地域を嫌いはならないでほしいし、住み続けたい良さを見つけ、共有してほしい。

	<p>全国的に話題となった熊の対応や後発地震情報など、対応しなければならないリスクは刻々と変化している。だからこそ身近な生活の場所における備蓄、持ち出し品、持ち歩き品など一人一人に見合った備えつまりは住まい方を考えておくことが必要となる。どの地域にもリスクは存在するが、生活そのものを向上させ豊かに暮らせる工夫をすることが防災であって、事前復興という考えにもつながっていく。</p> <p>(6)最後に</p> <p>日が昇り日が沈むという当たり前のようにやってくる明日を、最後だと思いながら生活する人はなかなかいないと思うが、明日を迎えられなくなることはありうる。だからこそ言葉に出すことがとても重要で、日頃から自分がいることに感謝をして言葉に出して、ありがとうと伝える。</p> <p>安否確認ができる挨拶は誰にでもできる防災活動に他ならないほか、そういう行動ができる自分がいることにも感謝して欲しい。このように学びの時間を持つことによって、皆さんが知識をつけて行動して街そのものを過ごしやすい、住み続けたいまちにしていくこと、それこそが防災の意義だと考えている。</p> 
開催地より	<p>非常に貴重な体験談も聞くことができたほか、防災士を取得されていらっしゃるので、防災についても具体的で充実した内容を伺うことができ大変参考になりました。</p>